

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	31人	算数	31人	理科	31人
第5学年	国語	29人	算数	29人	理科	29人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

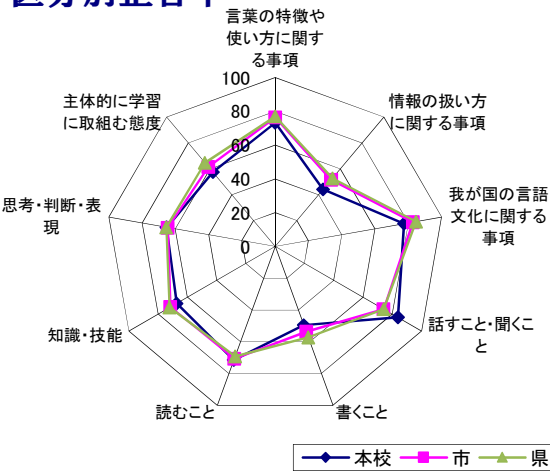
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.2	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	44.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	77.4	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	83.9	74.1	74.2
	書くこと	49.5	53.7	57.2
	読むこと	71.5	70.7	69.2
観点	知識・技能	67.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	65.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	57.4	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

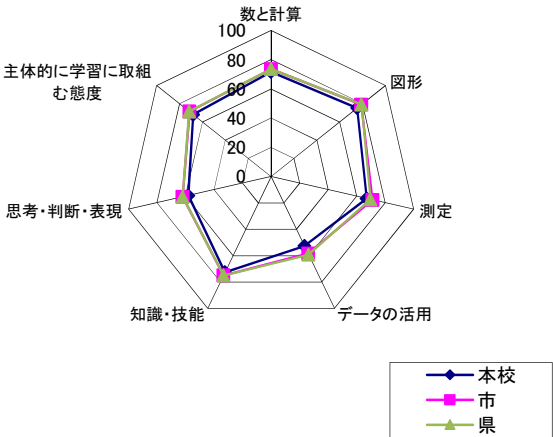
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○漢字の読みに関しての正答率が低い、漢字の書きに関しての正答率は県の正答率を上回っている。 ●様子や行動を表す語句、ローマ字のつづりについての理解に関する問題の正答率が低い。	・漢字の学習において読み書きの他に漢字の意味や使い方も併せて指導し、文や文章の中で適切に使える活用力の獲得を目指す。 ・パソコンでのローマ字入力等の学習を取り入れ、ローマ字に親しませる活動を多く設定する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●調べたことを文章にまとめる問題の正答率は、市・県の平均より4ポイント以上低い。	・辞書の利用については、国語科に限らず他教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に利用できるようにさせ、国語辞典や漢字辞典などの使い方の理解と語彙力の獲得を目指す。 ・調べ学習等で文章を書く学習では、話や文章の内容を網羅的に書き出したり、機械的にメモを取ったりするのではなく、必要な情報は何かを考えながら、落としてはいけない語句を適切に書き留めるよう意識させる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●漢字のへんやつくりに関しての問題の正答率は、県の平均より7.3ポイント、市の平均より5.4ポイント低い。	・漢字の学習において、漢字のへんやつくりなどから、漢字を調べたり、漢字の字義や読み方を推測したりする活動を多く取り入れ、漢字の構成を理解させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均と比べて約10ポイント高い。 ○話合いの内容を聞き取り、伝えたいことの中心や話し手の工夫を捉え、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるという問題の正答率は、市・県の正答率を約16ポイント以上上回っている。	・より一層の教科、学級活動等での話し合い活動の充実を図り、話したり聞いたりする活動を習慣づけていく。 ・友達の意見を聞き、それに対して自分の意見を発表するという場面(ペア・グループ・全体など)を多く設定する。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしているという問題の正答率は、県の正答率を6.5ポイント上回っている。 ●自分の考えとその理由を明確にして文章を書く問題や指定された長さで文章を書く問題の正答率が低く、記述問題に課題が見られる。	・視写活動を取り入れることにより、作文用紙の使い方や文章校正等、基本的な事項の定着を図る。 ・児童にとって興味関心がわくようなテーマを選んだり、字数制限つきの短い文章を書かせたりして、書くことの楽しさを味わわせ、抵抗を軽減していく。 ・日記等、文章を書く場面を多く設定し、書くことの習慣化を図る。
読むこと	平均正答率は、市・県と比べて約2ポイント高い。 ○登場人物の気持ちや場面の様子を読み取ったり、感じたことや考えたことを共有したりする問題の正答率は高い。 ●説明文の内容を読み取り、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率は、県の正答率より6.8ポイント下回っている。	・より一層の読書活動の充実を図り、文章を読む機会を多く設ける。 ・段落相互の関係を明確にさせる指導をし、文章の内容を的確に読み取ることができるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.6	73.5	73.6
	図形	75.3	79.0	79.1
	測定	67.1	71.1	69.8
	データの活用	52.7	58.4	59.2
観点	知識・技能	72.6	75.0	75.0
	思考・判断・表現	58.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	68.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

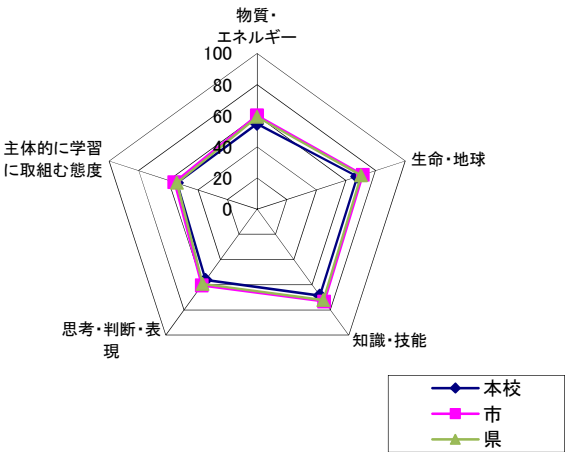
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○大きい数・小数・分数の問題は、正答率が79.4%で市の平均よりやや上回った。かけ算やわり算の基本的な計算については、正答率が高く、よくできている。 ●文章問題については、どの問題も正答率が低い。問題文を読み取る力に課題が見られる。	・朝の学習や計算ドリル、家庭学習等を通して、基本的な計算の反復練習を繰り返し行い、知識の定着を図る。 ・様々な計算方法は形式的に覚えるだけではなく、計算の過程も説明できるように指導していく。 ・文章問題を解く際には、具体物を使うなど場面をイメージさせる活動を多く取り入れ、問題の意味を正確に理解できるように丁寧に扱う。
図形	平均正答率は、市・県と比べてやや低い。他の領域よりも正答率が高い。 ○コンパスを用いて、正三角形を作図する問題は、市・県と比べるとやや低い。87.1%の児童ができた。 ●球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題は、市・県の平均より7ポイント以上低く、問題と図を関連付けて読み取る力に課題が見られる。	・日常生活の中にある図形について、日頃から話題に挙げることで、児童に関心をもたせる。 ・コンパスや定規などを使用して作図をする際には、児童一人一人の様子を把握し、個に応じた指導をしながら理解が図れるようにする。 ・具体物の操作活動や、実物投影機などのICTも活用しながら、図形の性質を視覚的に捉えさせ理解できるように指導する。
測定	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題では、市・県の平均より12ポイント以上高い。 ●はかりの目盛りから全体の重さを読み取って、果物だけの重さを求める問題では、市・県の平均より9ポイント以上低い。	・今後も、時と空間においては、日常的に時間の感覚を意識させるような機会を設定し定着を図る。 ・長さや重さの学習においては、具体物の操作や体験活動を多く取り入れ、児童が意欲をもって課題解決に取り組めるように指導する。
データの活用	平均正答率は、市・県と比べてどの問題も低い。 ●棒グラフの1めもりの大きさに着目して、間違いを説明する問題では、市や県の平均よりも12ポイント以上低い。	・学習の中で、身の回りの事象について、児童の興味・関心や問題意識に基づき、表と棒グラフに表す活動などを位置付け、身近なものとして感じられるよう課題の工夫を行う。 ・自分の考えを根拠をもって説明できる力を身に付けるために、日常的に理由を加えて発表したり、友達の考えに反応したりするような話し合い活動を適切に取り入れていく。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.8	60.2	59.2
	生命・地球	67.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	68.7	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	54.2	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県・市の平均より低い。 ○鏡の枚数と明るさ・温度の関係を問う問題において、約9割の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。 ○風の強さと車の動く距離の関係を問う問題において、約9割の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。 ○電気を通すもの・通さないものを問う問題において、約9割の児童が正答していた。 ●磁石の性質を問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。 ●回路と明かりのつき方を問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。	・今後も、授業におけるめあてや問題をとらえさせ、問題意識をもって実験に取り組めるような授業展開を行い理解を図れるようにする。 ・実験結果を振り返る時間を確保し、次時の学習へつなげたり発展的な学習を自主学習として取り組ませたりして理解を深めるようにする。 ・磁石の性質と電気を通す性質の違い等を、実際の実験を通して「同じこと」「違うこと」を比較し、明確にしながら理解を図れるようにする。 ・回路は普段ほとんど目にしないので、まとめをする時に復習させたり、日常生活の中でも話題として取り上げたりして意識させる。
生命・地球	平均正答率は、県・市の平均と比べて低い。 ○虫めがねや方位磁針の正しい使い方を問う問題において、県・市の正答率を上回っていた。 ○モンシロチョウのさなぎの様子を問う問題において、9割の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。 ○ホウセンカの成長と記録カードの関わりを問う問題において、県・市の正答率を上回っていた。 ●正午における影の方位や太陽の動きを問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。 ●ホウセンカやヒマワリの成長や様子を問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。	・体験的な活動を多く取り入れるとともに、一人一人が問題意識をもち話し合い活動しながら理解を深められるような指導する。 ・今後も、器具を使用し観察する活動を通して、実験器具の正しい使い方を身に付けさせる。 ・実際にモンシロチョウの卵から成虫になるまでの様子を継続的に観察したことが理解につながっていると考えられるので、今後も継続的な観察を行う。 ・植物の成長や太陽の動き等、時間経過が観察結果に関わる単元においては、視聴覚教材等を効果的に活用して理解を図る。

宇都宮市立海道小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は、県平均を10.5ポイント上回り、8割の児童が肯定的な回答だった。毎日の家庭学習記録カードの積み重ねが効果的だったと考えられる。今後も、日々のチェックと励ましに努めていきたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」への肯定的な回答が県平均を10.4ポイント上回った。また、「いいえ」と回答した児童の割合が0ポイントであり、日頃より授業の中で自力解決の場を取り入れていることがこのような回答に繋がったと考えられる。

○「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は、県平均を7.4ポイント上回った。当番表を作成して、毎日仕事に取り組むようにすることで、学級での仕事に責任をもつ気持ちが育ってきていると考えられる。また、代表委員等の仕事も積極的に取り組んでいるため、このような結果になったと推察される。

○生活リズムに関する質問において、肯定的な回答が多く、整ったリズムの中で生活できていることが分かる。

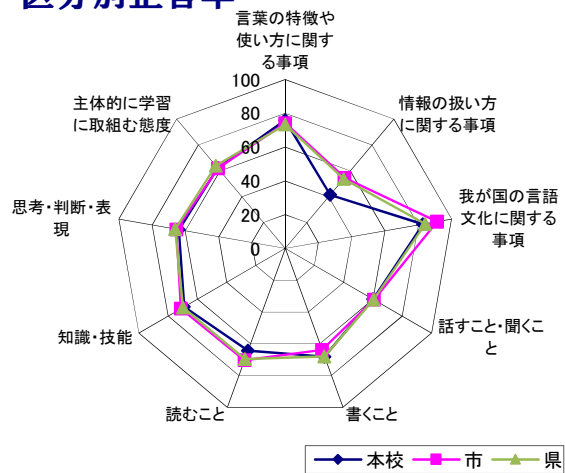
○「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」への肯定的回答は90.4ポイントで、県の平均を2.6ポイント上回った。「いいえ」と答えた児童はいなかった。いじめゼロ集会の実施やいじめゼロスローガンの作成、日々の学校生活における取組の結果より、児童も思いやりを大切にしていると考えられる。今後も、学校全体で継続して取り組んでいきたい。

●発表や授業中の発言に関する質問については、肯定的な回答が少なく、とくに「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問において、「いいえ」と回答した児童の割合が高く、41.9%だった。あらかじめ児童の考えを知り、褒めたりスタンプを押して自信をもたせたりするように取り組んできたことで、以前よりは頑張ろうという姿勢が見られるが、今後も継続し、さらに、児童が自信をもって発表しやすい環境づくりに努めていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.9	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	41.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	82.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	60.0	60.6	60.4
	書くこと	68.1	63.8	68.0
	読むこと	64.4	70.4	69.6
観点	知識・技能	69.0	71.3	69.9
	思考・判断・表現	63.9	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	62.1	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

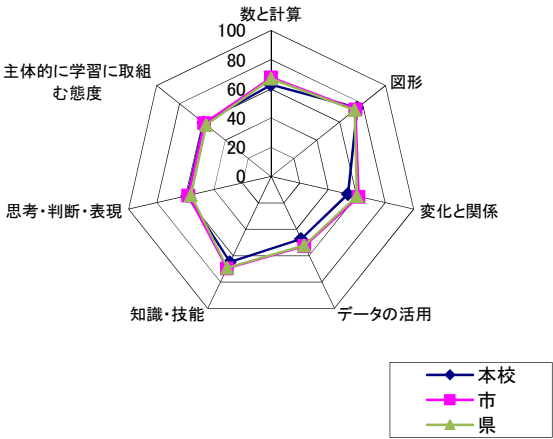
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県の平均より2.6ポイント高く、どの問題も県や市と同程度が高い。 ○漢字の読み書きにに関する正答率は、県を上回っている。 ●連体修飾語についての問題の正答率は、県・市の平均より低い。	・今後も漢字の習得時に丁寧に指導するとともに、日記指導等において活用力を身に付けられるようにする。 ・伝えたい内容をより詳しく表すための修飾語を理解するために、主語と述語との関係性や文の組み立てを継続的に指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県・市の平均より低い。 ●漢字辞典の使い方の問題は、県や市の正答率より低い。	・漢字についての学習意欲を高め、日頃から積極的に漢字辞典を使う習慣を付けられるようにする。学校の授業だけでなく、家庭学習でも漢字辞典の活用を促し、使い方の習熟を図る。 ・説明文において、接続詞や情報と情報の関係等に注目させたり、段落相互の関係を捉えさせたりしながら、内容的に正確に読み取る力の向上を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は県・市の平均より低い。 ●ことわざの意味を知り、正しく使うことに関する問題の正答率は、県や市より低い。	・ことわざや故事成語などに触れる機会を多く設け、意味や使い方を正しく理解できるようにする。また、家庭学習等で自主的に調べられるように促したり、調べたことわざや故事成語について発表や紹介の場を設けて、学習意欲向上に結び付けられるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県・市の平均と比べてほぼ同程度である。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題についての正答率は、県より12ポイント以上高い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す問題の正答率は低い。	・今後も授業中に話し合い学習を取り入れ、話し合いのルール、聞き方、話し方の徹底を図る。 ・学級活動等の場面において、理由を述べながら発言するようにする。また、多くの児童が司会の役割を果たす機会を増やし、話し合ったことをまとめる力が付くようにする。
書くこと	平均正答率は県の平均と比べてほぼ同程度である。 ○指定された長さで文章を書く問題については、県と比べて4.5ポイント、市と比べて9.3ポイント高い。 ●いずれの問題も無回答率が20.7ポイントであった。	・今後も書くことに対する抵抗感を軽減させるために、日頃から書くことについての習慣化を図る。その際、児童が書きたいという意欲がわくような題材を選んだり、文字数を決めて書かせたりするなどの工夫を取り入れるようにする。 ・自分で書いた文章を推敲することにより、文や文章、段落の構成を確認し、理解できるようにする。
読むこと	平均正答率は県・市の平均より低い。 ○登場人物の気持ちについて、自分の気持ちと重ね合わせながら想像し、選択する問題では、県・市よりも高い。 ●登場人物の気持ちの変化や情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する問題については、正答率が県や市より低い。	・読書活動の充実を図り、様々な文章に触れる機会を増やしていく。 ・物語においては登場人物の気持ちの読み取りや気持ちの変化や情景の読み取り、説明文においては段落相互の関係性の読み取りが的確にできるよう、ポイントを押さえながら丁寧に指導を行うようにする。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.8	67.8	67.0
	図形	75.4	73.9	73.1
	変化と関係	54.0	61.4	60.2
	データの活用	47.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	64.8	69.7	69.2
	思考・判断・表現	58.6	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	59.1	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

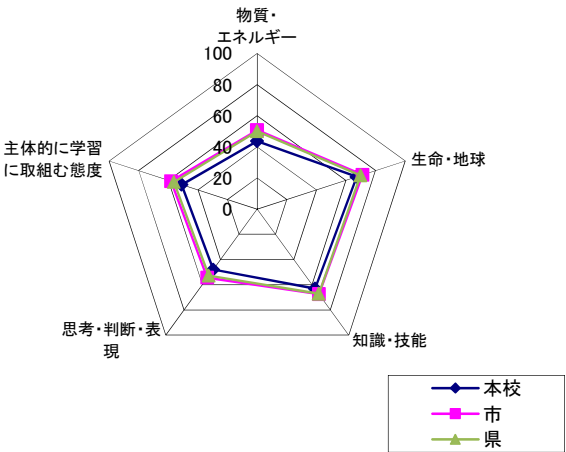
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較の問題は、正答率が79.3%で市や県の平均より高い。また、小数の計算については、どの問題の正答率も市や県より高い。 ●四則の混じった式の計算順序の理解を確認する問題や3けた÷2けた=2けた(余りあり)の問題では、正答率が市や県より10ポイント以上低い。	・今後も、朝の学習や計算ドリル、家庭学習等を通して計算の基礎的な学力の定着を図る。 ・学習プリント等を活用して、四則の混じった計算や余りのあるわり算の問題等の復習をする機会を設け、丁寧に扱う。
図形	平均正答率は、県の平均と比べて2.3ポイント高い。 ○面積を求める問題では、県の平均より高く、1000円札のおよその面積を選ぶ問題は、18.2ポイント高い。 ○ひし形の作図の問題では、正答率が93.1%で県や市の平均より10ポイント以上高い。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取る問題では、県や市の平均より10ポイント以上低い。	・分度器の目盛りの読み取り方について繰り返し復習させ定着を図る。 ・身近にあるものの面積について、日頃から会話の中に取り入れ、関心を持たせる。 ・今後もデジタル教科書や実物投影機などを活用し、図形のかき方の指導や様々な図形の性質を視覚的に捉え、理解できるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市・県と比べてどの問題も低い。 ○基準量と比較量から求めた割合を比較して説明する問題は、県の平均よりは高かったが、市の平均よりはやや低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、数量の関係を、割合を使って説明したりする問題は、県や市の平均より15ポイント以上低い。	・身の回りから伴って変わる二つの数量の関係を見つけ、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察させ、理解できるようにする。 ・説明や考え方を記述する問題の正答率が低いことから、記述する機会を意識的に多く設けたり、小グループやペアで自分の考えを分かりやすく相手に伝える学習を取り入れたりしていく。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○折れ線グラフを読み取る問題は、市や県の平均よりも5ポイント以上高い。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に説明する問題は、市や県の平均よりも10ポイント以上低い。	・学習の中で、身の回りの事象についての興味・関心や問題意識に基づき、統計的に問題解決する場面を多く設定していく。 ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察する活動を適切に取り入れていく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	43.7	50.8	50.0
	生命・地球	67.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	63.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	48.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	51.0	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○「電気のはたらき」における、直列つなぎへの理解度を問う問題の正答率は69.0%と、市の平均より4.4ポイント高かった。 ○「物のあたためり方」の、予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する問題では、市の平均より9.9ポイント高かった。 ●「物の体積と力」「水のすがた」では、どの問題も市の平均より低かった。 ●空気・水・金属の順に、温度による体積変化が大きいことを問う問題では、正答率が市の平均より低かった。	・その時間のめあてや学習問題をしっかり捉えさせ、児童が問題意識をもって実験に取り組み、予想や結果をもとに理解や考えを深めていけるようにする。 ・実験以外の学習でも、実物を見たり操作したりする機会をできるだけ多く設け、実感を伴った理解をできるようにする。 ・学習内容や場面に応じて、ICT機器や視聴覚教材を適切に活用し、理解を図る。
生命・地球	平均正答率は、市や県の平均と比べて低い。 ○「動物のからだのつくりと運動」では、どの問題の正答率も市の平均と同程度以上であった。 ○「自然の中の水」では、どの問題の正答率も市の平均より高く、結露に関する問題では7.6ポイント高かった。 ●グラフからヘチマの成長と気温の関係を読み取る問題では、市の平均より9ポイント低く、ヘチマの実の変化について問う問題では、6.3ポイント低かった。 ●1日の気温変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する問題では、市の平均より低かった。	・授業だけでなく、朝の学習や家庭学習における課題でも、グラフから情報を読み取ったり、考察したりする練習問題を取り入れ、活用力を高められるようにする。 ・実験結果や調べたことをもとに、分かりやすくまとめたり、自分の考えを書いたりする活動や、相手に伝えるように説明する活動を積み重ね、表現する力が身に付くようにする。 ・観察において、ただ見るだけでなく、目的意識や問題意識をもって取り組めるよう指導していく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ほとんどの教科について、「将来のために大切である」との問いに肯定的に回答している。特に、国語、社会、算数については、96.6%以上の児童が肯定的な回答であった。

○「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問において、100%の児童が肯定的な回答であった。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「友達と話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができている」という質問において、肯定的な回答が県の平均より高かった。今後も自分の考えを発表する場を設定し、友達と対話的な学びを通し考えを深め、広げさせていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」という質問において、100%の児童が肯定的な回答であった。

●「早寝早起きを心がけている」という児童の割合は、県平均よりやや低かった。家庭との連携を図りながら、基本的な生活習慣について見直しをしていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」という質問において、県平均よりも10ポイント以上高く、学習に対して強い関心を寄せている児童が多いことが分かる。その一方で、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という質問においては9.4ポイント、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問においては、13.3ポイント県の平均より低かった。司書と協力し、必要な本の探し方について図書室の利用の仕方を再確認したり、総合的な学習の時間の授業においてインターネットを利用した検索の仕方を学習したりして、調べ学習に対する苦手意識を無くしていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強している」に肯定的に回答した児童の割合は80%で県の肯定的な回答より7.5ポイント高かったが、「家で、学校の授業の予習をしている」児童は県の平均より8.1ポイント、「家で、学校の復習をしている」児童は県の平均より1.5ポイント低かった。保護者と連携しながら、海道小スタンダードや家庭学習の手引きなどを活用し、家庭で授業に関わる内容の学習に自主的に取り組む姿勢を育てていきたい。

宇都宮市立海道小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	算数において、5年生の「図形」の領域は、正答率が県の平均と比べて2.3ポイント高かった。しかし、4・5年生ともに「数と計算」「データの活用」領域においては、県や市の平均を下回った。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	児童質問紙調査の「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」では、4年生の肯定的回答は87.1%で県の平均より13.3ポイント高く、5年生は80%で2.2ポイント高かった。
家庭学習への取組	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	4・5年生ともに「家で自分で計画を立てて勉強している」に肯定的に回答した児童の割合が高く80%を越えている。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」は、全児童が肯定的回答をしている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語「書くこと」の領域において、正答率が県と比べて4年生が7.7ポイント低い傾向にある。また、児童質問紙調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童は、4年生は73.3%、5年生は67.7%と多くいた。 算数「データの活用」の領域において、グラフを読み取り、それを根拠に説明する問題や間違いを説明する問題の正答率が、4・5年生ともに市や県の正答率より10ポイント以上低く、課題が見られる。	自分の考えを分かりやすく表現する（書く・説明する）力を育成するための言語活動の充実を図る。	授業において、自分の考えを記述する機会を意識的に設けたり、他者の意見に理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 また、家庭学習等で視写活動を取り入れたたり、テーマを選んで自分の考えを書く場を増やしたりすることにより、書くことの苦手意識を軽減していく。 学習の中で、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識に基づき、統計的に問題解決する場面を多く設定していく。